

広報しろいし

所室
役議市審
石画企白

行發と集
市樓小路35
（代）5-2111
毎月1日
(壳価1部2円)

交通安全

年末年始

酒のみ運転は交通三悪といわれるうちでも、もっとも危険なことであると同時に違反を知つておこなう点で要質であるといわなければなりません。

みなさん、毎日、テレビや新聞をにぎわしているのは「酒のみ運転で死亡事故」「酒のみ運転逮捕」などの記事で常連のように頭を出しているのが現状です。

昨年一年間の全国の交通事故をみると発生件数七一八、〇八〇件、死者一六、

も交通事故が起きているこ

酒のみ運転をなくそう

酒のみ運転をなくすためには車を置いて行くよう習慣づけましょう。

① ドライバーは

「飲んだら乗るな『乗るなら飲むな』をまず実行いたしましよう。」

② 家庭では

酒を飲ませてから運転をとめるより「酒をださない」との規則を守りましょう。

つね日頃から家族全員で酒のみ事故など話題にして関心を高めておきましょう。車を運転する人に酒を飲ませた場合は酒のみ運転の

市議会臨時会

▽第一回白石市議会臨時会は十一月十日招集され会期を△

▽四日間とし原案どおり可決され十三日閉会△

▽その審議案は次のとおりです。

▽白石市老人福祉センター建設工事請負契約について建設地△

▽白石市福岡藏本字薬師堂地内（加入者ホーム西側）△

市庁舎建設補正予算と老人福祉センター工事契約を提案

とを深く肝に銘ずべきで正直な運転を全く期待できぬことはありますので絶対にい酒のみ運転の場合は死亡事故や重傷事故につながりやすく、楽しい家庭が一瞬にして真暗やみに放りだされる結果になります。

これから寒くなると、とかく酒やビールを飲む機会が多くなります。

車のキーの保管を厳重に

共犯として取調べをうけることがありますので絶対に飲ませないようにします。

して無断持出しによる酒のみ運転のないようになります。

『歳末たすけあい運動』 にご協力ください

第149号 昭和46年12月15日

季節の話題

まだ寒さまでには間があ
ると思っているうちに、朝
晩の冷えこみがつよくなり、
とうとう十二月になつてし
まいました。

『月日は百代の過客にして、
行きかふ年もまた旅人なり
(奥の細道)』といった芭
蕉の気持ちがわかるような
気がします。なにか「あつ
た感じです。

このごろは十二月でも年の
暮れといふべき立冬(十一月八日)から立
春(二月四日)までを冬と
いっていますが、気象的に
は、この十二月から来年の
二月までの三ヶ月をいいま
押しつまつたといつても、

十二月は一年
りと新しい年を
をふくめて、な
そがしい月です
家事を切りまわ

寒い晩にはチリなべ、寄
のしめくくせなべなど、なべ料理の残
迎える準備 つたおつゆにごはんを入れ
まんとなくいって「おじや」にしていただ
くとからだが暖まってきた。
とくに、す。
わす主婦にと
わざわしい月 貧よりも寒さがつらし根
采十。小さなお

ですが、この日からいよいよ寒さも本格的な冬の到来ということがあります。さて「冬至」ですが、冬至は一年中でいちばん日曜時間が短かい日です。年の暮れもますます押しつまりました。ましてこの一年十

十一月といえば冬、冬とすぐ反射的に返ってきますが、寒いのは何もことしに始まつたわけではありません。毎年くり返していることですから、いまさらあわてることはありませんが、ただ、十一月が寒いか暖かいかは、大陸の高気圧が発達するかどうかということにかかるっているということです。

はこの年末年始にかけての連休をどうしたのしもかと計画を立てたり、ご家庭では間もなく持ってくるご主人のボーナスの胸算用や、買い物の手順を考えていることでしょう。

町を歩けば人の流れは日ましに濃くなってきたことに気がつきます。ことに商店街では今月に入る前からジングルベルを鳴らし購買欲をおり立て、町からどにサンタクロースの服装をしサンドイッチマンが大売

はないでしょ
子さんのいる
もうすぐやつて
冬休みにつづいて
ス。信教のい
子どもたちの問
リスマスのお祭
ているのでしょ
のサラリーマン
早目にデコレー
キのはいったチ
かえて帰宅をさ
つて多くなりま

稻田 都穂
ぶか汁、味噌を濃うし
だし加へ、一塩の鯛を
てよし（料理物語）」
深汁というものは、ネギ
にしたみそ汁のことです
ネギは冬がいちばんおい
いとき。熱いのをふう
吹きながらいただきま
ネギは半煮えぐらいが
ようです。

1月の休日当番医

月 日	内 科	外 科
1月1日	加藤(和)	加藤(大)
2	柿崎	刈田病院
9	亘理	朝倉
15	大沼	錢谷
16	笆	刈田病院
23	水野	宮城
30	加藤(和)	加藤(大)



三

七八
小説

寒い時

米へんに参という字を書いてコナガキと読みます。

です。このごろの天気は定まらず、率よく暮らしてゆくために時には大雪に見舞われることのあることから付けられたものでしようか。「大雪」というのは一年を「二十四」の節気にわけ、立春からかえて二十一番目の氣にあたるもので。このあとごとし中に「冬至（二十一日）」とつづき旧暦でいう「

（二月二十一日）」がありません。日が短かいとはいっても、この二月二十一日はいつも夜は長いわけですが、この長い夜をどういふふうに利用するか……で、家族みんながたのしくも、気ぜわしくなるわけです。